

今こそ、牛鬼

宇和島のアマビエ

宇和島の祭りには欠かせない「牛鬼」。毎年7月に開催される「うわじま牛鬼まつり」では、何十体もの牛鬼が宇和島のまちを練り歩きます。しかし今年は、新型コロナウイルスの影響により中止となってしまいました。

ウイルスの影響が全国的に広がる中、疫病退散の厄除けとして注目されたのが妖怪「アマビエ」でした。

魔除けや商売繁盛の象徴として店舗や自宅に飾られ、街中でもモチーフとして多く見かけられる牛鬼は「宇和島のアマビエ」とも言えるのかもしれませんが。

今回は、こんなときだからこそ「牛鬼」に注目します。





牛鬼と
ともにあるまち





牛鬼とは

宇和島の祭りの花形として登場。長い首を打ち振りながら練り歩き、家ごとにかぶ（頭）を突っ込んで悪魔払いをする。宇和島にとって当たり前前にある「牛鬼」について、市内2団体に話を聞きました。



丸穂牛鬼保存会

うわじま牛鬼まつりでは市役所牛鬼保存会の次に登場します。大きなカブとえんじのキレ（布）が特徴で、市役所の2体との恵美須町交差点での「練り」でもお馴染みです。

名誉会長の山下 忠文さんにとって、牛鬼は生活の一部だそうです。物心ついたころから牛鬼にふれ、20年以上会長を務めた山下さん。名誉会長となった今は、現会長の松田 光樹さんを始めとした若い人たちの相談役となっています。

5年前に会長になった松田さんは、牛鬼は人と人とのつながりを生んでくれるものと話します。祭りに参加する中でしか関わることのない人たちと知り合え、大きな財産になっているそうです。しかしそれは、昔は地元だけでまかなえていた担



人と人をつないでくれるもの

(会長 松田光樹さん)



ぎ手が減り、地域の枠を超えて協力し合うようになったからこそ。人集めの苦労から、祭り1カ月前から体調を崩した役員もいたそうです。

今後について松田さんは「牛鬼がこの先も何十年何百年と続くように、次の世代がやりやすいようにしていきたい」と言います。山下さんは「子ども牛鬼が少なくなっている。竹ボラもそう。子どもたちにももっと参加してほしい」と願います。

2人に共通するのは「参加する人が心から楽しめるものになりたい」という想い。「それが見に来る人の楽しみにつながるはず。参加者も見に来る人も安心して祭りを楽しめるように、関係団体と協力しながら牛鬼の魅力をもっと広めていきたい」と話してくれました。



自分にとっては生活の一部

(名誉会長 山下忠文さん)



杖ついてでもやらんといけん



保田牛鬼保存会

会長 ^{すぎ} 枚原 宏二 さん

薄茶色のキレでお馴染みの保田牛鬼。うわじま牛鬼まつりでは最後尾を担い、パレードをしつかり締められています。祭りの際に街中に置かれている牛鬼も保田牛鬼保存会のものです。

40年以上会長を務める枚原宏二さんは、現在66歳。カブは枚原さんが1人で作っています。祭りで使うもの以外でも、病気が治るようになど頼まれて作ることも多いそうです。

担ぎ手は地元の人だけでまかっています。しかし以前は50〜60人いた担ぎ手も、今は半分ほどになってし



①後ろのカブはすべて枚原さんが作ったもの②「うちの首が太いのが特徴なんよ」と枚原さん③カブの後ろにあった年代物のミシン。これでキレを縫っているそうです。



まいりました。「子どもたちも減ってきてとるし、市外に出て行くのも仕方がない。それでも担ぎたいと言ってくれる子もおるけん頑張らんといいん」と話します。

会長も代替わりの時期にきているそうで、次の会長がやりやすいようにと次世代のフォローにも余念がありません。「伝統を絶やさんよう、やれることは杖ついてでもやっていかないけんと思えるんよ」と笑顔で話す枚原さんからは、世代を超えて牛鬼を守り続けたいという想いが感じられました。

牛鬼のココロへ

牛をかたどった竹組の胴体に、丸木で作られた長い首と鬼面の頭、剣をかたどった尾がつき、シユロの毛または布で覆われている。

起源は、戦国武将加藤清正が朝鮮出兵の際に城攻めに使った亀甲車（戦車の一種）とする説もありますが、定説はありません。

枕草子には「名おそろしきもの―牛鬼」と記され、近隣の村にはほら貝を鳴らすような声をあげて走り回る牛鬼を山伏が退治した説話があるなど、牛鬼は怖いものの代名詞だったようです。この恐ろしいものを南予独特のおおらかさで「悪魔払い」として登場させたのかもしれない。

今回話を聞いてみて、同世代でもある山下さんと枚原さんは、互いの存在を意識しながらも、長年牛鬼を守ってきた分りあっている同志という印象を受けました。

そして松田さんたち次の世代がうまくやっていけるように、しっかりとフォローをしていくという想いも同様でした。

牛鬼を想う心がある限り、宇和島は牛鬼とともにあるのだと思います。そして宇和島の守り神として、今後も宇和島を守っていつてくれることでしょう。

宇和島人の「心得^{ココロヘ}」としてあたりまえにあるもの。牛鬼もまた、宇和島の「ココロまじわうトコロ」だといえるのではないのでしょうか。